



■26

ギボン隕鉄

先月号のこの紙面で紹介した2001年4月3日条市での話。剃刀鍛冶で有名な岩崎重義師匠に隕鉄のことを尋ねられた時、思いつくまま以下のよう話をしました。

1. 隕鉄は組成や成分のバラツキが大きく刃物作りの適材ではありません。加熱して叩くとバラバラになってしまったと書かれた本を見たことがあります。

2. 隕鉄は鉄とニッケル



ギボン隕鉄(大)

ルの合金ですが、ニッケルは材質が比較的均質の含有量には大きな差があります。ほとんどの隕鉄は柔らかくて刃物には向きません。

3. 柔らかいので刃物にする場合は刃金（はがね）を鍛接する必要があります。

4. これまで調べた中

初対面で、私は鍛冶場の生徒。しかし師匠は古くからの友人のように私に接してくださいました。2日間の鍛冶道場で

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと交換しています。

したが、手の遅い私は2日目の午後になっても小刀が完成しません。「あとで仕上げて送りますよ」師匠の奥さまの言葉に甘えて、新潟空港へ急ぎました。10日は後送られた木箱入りの小刀は立派なもので、現在展示しています。

2007年、いつもお世話になっている大阪在住の友人「勾玉屋」(まがたまや) 大森直貴様から連絡がありました。「あなたに言っておられた大きな隕鉄が手に入りましたのでお送りします」。翌日、待望の隕鉄が送られて来ました。隕鉄の元の所有者に医師から依頼がありました。「家の書斎の装飾にピッタリなのでこの隕鉄を売ってください」ということですが「これは



ギボン隕鉄(小)

飾りものではありませんせん」と断られました。大森さんは「鉄の大好きな友人が姫路にいます。ぜひ、分けてください。必ず彼は喜んでしょう」とねばり強く交渉していただき、その結果私の手元に大きな「ギボン隕鉄」が送られてきたのです。隕鉄は3個、大きい塊は10kg x 10kg x 9kgで3.6kgあります。中(850g)と小(110g)は削り出しで、エッチングされた幾何学模様があります。後日、中のギボン隕鉄の硬度を調査したところブリネルくぼみ径(4・4・4・6)で硬度はHB170-187、抗張力に換算すると約58kg/mm²で柔らかい素材でした。また、くぼみが球形ではなく、一部に段差があり、硬度が違う硬い部分があります。三条の鍛冶屋さん達は小刀作りに際して隕鉄を地金として、刃金（はがね）を鍛接された2011年8月31日の三条新聞は報じていました。

▽ギボン隕鉄 (Gibeon meteorite)
現在のナミビア・ハルダプ州で発見された鉄隕石で、ギベオン隕石とも呼ばれる。約4億5千万年前に地球に落下したと考えられています。隕鉄は現地人により、槍などの武器を作るのに使用されてきました。ヨーロッパ人によって最初の破片が発見されたのは1836年で、隕石であることが確認されました。隕石は大気中に突入したときに爆発し、数千の破片が390×120kgの範囲に落下したとされ、トータルで2万6000kgの破片が回収されています。(ウキペディアより転載)